

大学院医療保健学研究科修士課程に係る入学受け入れの方針、教育課程編成・実施の方針、学位授与の方針

【看護マネジメント学、看護実践開発学、助産学、感染制御学、周手術医療安全学、滅菌供給管理学、医療栄養学、医療保健情報学】

令和 7. 4. 1 施行

入学受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
<p>科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、各領域において医療保健分野における学際性と専門性を追求し、さらにマネジメント能力の兼備、医療保健現場における実践の質の向上を図ることとし、学際的・国際的な視点から医療保健学を教授し臨床現場における実践能力及び研究・教育・管理能力を持つ高度専門職業人を育成するため、入学には次の資質が求められます。</p> <p>看護マネジメント学領域</p> <p>(1) 所属組織における管理や協働経験を有し、部署・組織とともに地域全体の看護の質向上・改善までを含むビジョンを描き、リーダーシップを発揮する意欲のある者</p> <p>(2) 現場の看護管理の実践に、経営学や質管理などの学問的知識や手法が必要と考え、さらに学修を深めたいという意欲がある者</p> <p>(3) クリニカルクエスチョン（臨床での疑問）を持ち、その社会的意義や学術的意義を考えていく意欲のある者</p> <p>(4) 学位取得および働きながら研究活動を遂行する意欲のある者</p>	<p>1. 科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し、臨床現場における優れた実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人を育成するための教育課程を編成し、実施します。</p> <p>2. 医療保健に関する知識を含め応用力・実践力・マネジメント力豊かな人材を育成するため、8つの領域(看護マネジメント学、看護実践開発学、助産学、感染制御学、周手術医療安全学、滅菌供給管理学、医療栄養学、医療保健情報学)に共通した総合領域必修科目及び選択科目を開設します。</p> <p>3. 医療の実践現場で役立つ研究課題を追求するとともに、現場の抱える関連諸問題解決に寄与するため各領域の専門分野に応じた必修科目、選択科目及び研究演習を開設します。各領域における方針は次のとおりです。</p> <p>看護マネジメント学領域</p> <p>(1) 組織経営、人材育成・活用、医療組織の質保証に関する知識を身につけることができるよう、教育課程を編成します。授業において経験事例等のプレゼンテーションおよびディスカッションを実施し、協力して問題を分析し改善策を探索する力を養います。</p> <p>(2) 実践の場での問題解決に活用できる研究力を修得できるよう、教育課程を編成します。量的研究および質的研究の方法論やそれぞれの先行研究を理解するために統計の知識・手法を教授します。修士論文作成を進めるプロセスにおいて、①文献講読を重ね、知を積み上げながら研究デザインする力、②臨床から生じた研究疑問を広い視野で捉えて再考し、説明する力、③分析結果に基づき考察する力を養います。また、研究倫理を理解し、適切なデータ管理の方法を教授します。</p>	<p>1. 医療保健学研究科修士課程の修了要件を満たすとともに、以下に掲げる全領域共通の能力及び第 2 項以下の各領域に掲げる能力を有する高度専門職業人であると認められる者を修了とし、修士の学位を授与します。</p> <p><各領域共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場における優れた実践能力及び研究・教育・管理能力を有していること ・医療保健に関する知識を含め応用力・実践力・マネジメント力を備えていること <p>2. 各領域における学位授与の方針は次のとおりです。</p> <p>看護マネジメント学領域</p> <p>第 1 項の要件を満たすとともに、より良い看護の継続的な提供を目指し、現状及び近い将来予測される課題を見出し、適切な研究方法を用いて看護マネジメントに取り組む態度、論理的思考力、創造力を有すると認められる者に修士（看護マネジメント学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 実践の場の改革とともに、政策提言も視野に、地域・社会の変革に向けたビジョンを描き、リーダーシップを発揮する能力</p> <p>(2) 多様な能力・価値観を認め結集し、目標に向かって協働を促す能力</p> <p>(3) 最新の国際・学際的知見および関係者の意見等をふまえ自分の考えを統合し、口頭・文章表現によつて的確に伝える（発信する）能力</p> <p>(4) 目の前の問題から看護の普遍的な価値を持つ課題を見出し、社会的・学術的な背景・関連要因を探究した上で、介入方法を評価・改善し続ける能力</p>

入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
<p>看護実践開発学領域</p> <p>(1) 看護の実践知に関心を持ち、より良い看護を探求しようとする意欲を有する者</p> <p>(2) 社会のニーズに応じ、先を見据えて新たなケアを創出する意欲を有する者</p> <p>(3) 実践の知を医療の現場に還元し、今後の医療保健に貢献する意欲を有する者</p> <p>助産学領域</p> <p>(1) 助産師としての臨床経験を有し、確実な助産実践能力、患者教育及び学生・同僚への教育・指導力等の向上に意欲を有する者</p> <p>(2) 自らの考えを表現し、また、他者からのフィードバックを受け入れて統合する力を備えている者</p> <p>(3) 臨床における問題意識を有し、専門知識と実践力を生かして自ら行動し変化を起こす意欲を備えている者</p> <p>(4) 実践と概念を結びつけるための思考能力の基礎を有する者</p>	<p>看護実践開発学領域</p> <p>(1) チーム医療の一員として医療現場におけるコラボレーションを実現するため、医療保健に関する高度な専門知識を修得できるよう教育課程を編成します。</p> <p>(2) 「開発」をキーワードに看護実践の4つの柱として「探索」「構築」「研究」「発信」を位置づけ、高い倫理観と学際性に基づき看護の社会貢献を実現するための教育課程を編成します。 看護実践における興味・関心、問題意識に基づき、個々の課題を深く探求するとともに、多様な看護の実践可能性に視野を広げる教育機会を提供します。</p> <p>助産学領域</p> <p>(1) 妊産婦ケア提供システムの改革を推進し、助産ケアの質向上と発展に創造的に取り組む人材の育成ができる以下の科目を編成します。 臨床助産学特論・演習では、基礎的知識と実践能力を探求します。 助産学教育特論・演習では、ヘルスプロモーション、対象者の健康教育等により助産診断の実践力を探求し、教育活動ができる能力を学修します。</p> <p>(2) 高い倫理観と科学的に基づくウィメンズヘルスと助産ケアをめざす教育・研究能力を有する実践者の育成ができる科目を編成します。 助産学特論Ⅰでは、ウィメンズヘルスの対象となる女性やその家族について、社会の動向を理解し、女性のライフサイクル各期の特徴を理解し健康問題に対する援助とその実践について学修します。 助産学特論Ⅱでは、リプロダクティブヘルスを基盤とする母子や女性に対する保健医療活動の実際や健康を享受することの格差など、国際時代に生じる母子保健の多様性と課題について学修します。</p> <p>(3) 自律性をもって保健医療福祉の多職種と連携し、看護職としてのリーダーシップを発揮できる能力を育成するために、ゼミでの討議、授業内でのプレゼンテーション、教育活動の実際や臨地実践を通して学修します。</p>	<p>看護実践開発学領域</p> <p>第1項の要件を満たすとともに、複雑な医療ケアの場における課題を見出し、適切な研究方法を用いて看護実践の質改善に貢献しようとする態度、論理的思考力、想像力を有すると認められる者に修士（看護実践開発学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 複雑な医療ケアの場における課題を見出し、その課題を探求するための基礎的研究能力</p> <p>(2) 社会背景の変化に応じ、対象のニーズに即したケアを創出し看護実践の質改善に貢献できる能力</p> <p>(3) 高い倫理観と医療保健に関する幅広い知識を有し、ケアの質向上に向けて継続して研究・発信していく能力</p> <p>助産学領域</p> <p>第1項の要件を満たすとともに、助産領域におけるEBM（根拠に基づく医療）に基づいた高度な実践力と研究力、チーム医療での協働と折衝力、貢献力を有すると認められる者に修士（助産学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力</p> <p>(2) 保健・医療の現場において、問題意識を持ち、研究を推進できる能力</p> <p>(3) 保健・医療の実践現場で他の分野と連携して、修正および変革に貢献できる能力</p>

入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
<p>感染制御学領域</p> <p>(1) 感染制御学の基礎的知識を有し、体系的に学ぶ意欲を有する者</p> <p>(2) 臨床現場および社会との関連において、双方向的に卓越した実践能力・調整能力を身に着ける意欲のある者</p> <p>(3) 専門性をより高め、体系的な感染制御を学ぶ意欲を有する者</p> <p>(4) 学位取得および働きながら研究活動を遂行する意欲のある者</p>	<p>感染制御学領域</p> <p>感染制御学研究の基盤となる知識を修得するため、講義、実験演習、論文輪講等のカリキュラムを編成します。</p> <p>(1) 感染制御学の歴史や法律、主に基盤となる感染症の医学的知識や病院設備に関連した感染制御の視点、医療現場の洗浄・消毒に関する基本的な知識を修得できるよう教育課程を編成します。</p> <p>(2) 感染症の原因となる微生物を理解し、微生物検査結果を感染制御活動に適用するための能力を養います。感染制御に使用する消毒薬、器材に関して微生物学的な見地からの課題について学修します。</p> <p>(3) 感染制御学領域での研究対象の設定から、臨床で生じた研究疑問を広い視野で捉えて再考し、エビデンスを構築する力、説明する力、分析結果に基づき考察する力を学修します。</p>	<p>感染制御学領域</p> <p>第1項の要件を満たすと同時に、現場における感染制御学の課題を見出し、客観的かつ論理的に解決できる能力を有すると認められる者に、修士（感染制御学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 医療現場に直結した感染制御の課題を解決する能力</p> <p>(2) 最新の学際的な知見および他の専門家の意見等をふまえ自分の考えを統合し、的確に発信する能力</p> <p>(3) 社会的・学術的な背景を理解し、関連要因を探究した上で継続して研究し、その成果を発信していく能力</p>
<p>周手術医療安全学領域</p> <p>(1) 周手術の医療安全における基礎的知識を有し、体系的に学ぶ意欲を有する者</p> <p>(2) 臨床現場において、卓越した実践能力・調整能力を身に着ける意欲のある者</p> <p>(3) 専門性を高め、今後の周手術医療安全に貢献する意欲を有する者</p> <p>(4) 学位取得および働きながら研究活動を遂行する意欲のある者</p>	<p>周手術医療安全学領域</p> <p>周手術医療安全学研究の基盤となる知識を修得するため、講義、実験演習、論文輪講等のカリキュラムを編成します。</p> <p>(1) 周手術期における歴史や法律、主に基盤となる術前・術中・術後の医学的知識や病院設備（特に手術室空調）に関連した感染制御の視点、医療現場の洗浄・消毒・滅菌に関する基本的な知識を修得できるよう教育課程を編成します。</p> <p>(2) 感染症の原因となる微生物を理解し、周術期に使用する消毒薬、器材・器機に関して微生物学的な見地からの課題について学修します。また、医療器機の洗浄・滅菌のモニタリングやバリデーションを理解する科目を編成します。</p> <p>(3) 周術期領域での研究対象の設定から、臨床で生じた研究疑問を広い視野で捉えて再考し、エビデンスを構築する力、説明する力、分析結果に基づき考察する力を学修します。</p>	<p>周手術医療安全学領域</p> <p>第1項の要件を満たすと同時に、周手術の現場における医療安全に関する課題を見出し、客観的かつ論理的に解決できる能力を有すると認められる者に、修士（周手術医療安全学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 周手術の課題を解決する能力</p> <p>(2) 最新の学際的な知見および他の専門家の意見等をふまえ自分の考えを統合し、的確に発信する能力</p> <p>(3) 社会的・学術的な背景を理解し、関連要因を探究した上で継続して研究し、その成果を発信していく能力</p>
<p>滅菌供給管理学領域</p> <p>(1) 滅菌供給における基礎的知識を有し、総合的に学ぶ意欲を有する者</p> <p>(2) 臨床現場および社会との関連において、双方向的に卓越した実践能力・調整能力を身に着ける意欲のある者</p> <p>(3) 専門性をより高め、学問的知識や手法を体系的に学ぶ意欲を有する者</p> <p>(4) 学位取得および働きながら研究活動を遂行する意欲のある者</p>	<p>滅菌供給管理学領域</p> <p>滅菌供給管理学研究の基盤となる知識を修得するため、講義、実験演習、論文輪講等のカリキュラムを編成します。</p> <p>(1) 滅菌供給および感染制御学に関する歴史や法律、病院設備に関連した感染制御の視点、洗浄・滅菌の原理に関する知識を身につけるとともに、滅菌供給管理の基盤となる消毒薬の基礎知識や関連する感染症の医学的知識を修得できるよう教育課程を編成します。</p> <p>(2) 感染症の原因となる微生物を理解し、感染制御に使用する消毒薬、器材・器機に関して微生物学的な見地からの課題について学修します。また、</p>	<p>滅菌供給管理学領域</p> <p>第1項の要件を満たすと同時に、現場における滅菌供給管理の課題を見出し、客観的かつ論理的に解決できる能力を有すると認められる者に、修士（滅菌供給管理学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 滅菌供給の課題を解決する能力</p> <p>(2) 最新の学際的な知見および他の専門家の意見等をふまえ自分の考えを統合し、的確に発信する能力</p> <p>(3) 社会的・学術的な背景を理解し、関連要因を探究した上で</p>

入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
<p>医療栄養学領域</p> <p>(1) 医療・保健分野における社会のニーズを踏まえ、それらに対する問題意識を有し、その解決に意欲を有する者</p> <p>(2) 高度専門職としての臨床経験を有し、患者の栄養サポート能力、および同僚への教育・指導力等の向上に意欲を有する者</p> <p>(3) 専門知識と臨床における実践力を統合し、論理的思考力を高め、今後の医療・保健に貢献する意欲を有する者</p> <p>医療保健情報学領域</p> <p>(1) 医療保健分野における実践的な知識や経験を通して問題意識を持ち、社会共通の課題として探求する意欲がある者</p> <p>(2) データサイエンス・情報学を学び・実践するための社会人基礎力がある者</p>	<p>医療器機の洗浄・滅菌のモニタリングやバリデーションを理解する科目を編成します。</p> <p>(3) 滅菌供給管理学領域での研究対象の設定から、臨床で生じた研究疑問を広い視野で捉えて再考し、エビデンスを構築する力、説明する力、分析結果に基づき考察する力を養います。</p> <p>医療栄養学領域</p> <p>(1) 医療・保健分野において社会のニーズに応えられる病態アセスメントに強い栄養や臨床検査のスペシャリストの養成を主眼とし、専門的かつ高度な知識を体系的に学び、論理的思考力を高めて、さらなる実践能力を修得できるよう、カリキュラムを編成します。</p> <p>(2) 栄養摂取および栄養管理と疾病発症・疾病予防との関係を体系的に学修し、傷病者における栄養ケアおよび栄養管理の在り方を考察できる力を養います。</p> <p>(3) 研究論文の精読を通して、論文の結果を客観的な視点で読み取り応用する力を養います。また、論文から得た知見を発表会やディスカッションを通し、自分の言葉で人に伝える力を養う場を提供します。</p> <p>医療保健情報学領域</p> <p>(1) 医療保健分野におけるデータサイエンス・情報学の多様なアプローチを学び、研究実践の学問的基盤を構築するための科目を設定します。</p> <p>(2) 学生の実践・経験に基づく問いを出発点として、先行研究のサーベイや多様な教員との議論を通して研究課題を探求し、研究を実践するための科目を設定します。</p>	<p>継続して研究し、その成果を発信していく能力</p> <p>医療栄養学領域</p> <p>第1項の要件を満たすとともに、臨床現場における卓越した栄養サポート能力及び研究・教育・管理能力を有すると認められる者に修士（医療栄養学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 医療・保健分野において、問題意識をもち、課題を探求することができる基礎的な研究能力</p> <p>(2) 臨床において、他分野と協働し卓越した栄養サポートを行うことができる能力</p> <p>(3) 医療・保健に関する幅広い知識を有し、栄養管理や臨床検査の質の向上に向け、継続的に研究・発信していく能力</p> <p>医療保健情報学領域</p> <p>第1項の要件を満たすとともに、医療保健分野の課題を見出し、データサイエンス・情報学を活用して解決できる能力を有すると認められる者に、修士（医療保健情報学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 医療保健分野における社会的・実践的な課題に対して、探求するべき問いを立てる能力</p> <p>(2) 課題解決の基盤となるデータサイエンス・情報学の知識・技能および実践能力</p> <p>(3) 医療現場においてデジタルトランスフォーメーションを横断的に推進し、課題解決を紡ぎ出す能力</p>

【プライマリケア看護学領域】

入学者受入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
<p>(1) 個人・家族の健康の質・生活の質や価値観を重視して地域の人々の健康の維持・増進・疾病の悪化予防に寄与する意欲を有する者</p> <p>(2) 在宅・施設・病院の機能をつなげ、看護の専門性に基づくマネジメントに対して関心が高い者</p> <p>(3) 多職種と連携・協働するための人間関係を構築する能力を有する者</p> <p>(4) 高度な看護実践を現場に根差して提供しながら、常によりよい看護を自ら発展させる意欲をもつ者</p>	<p>(1) プライマリケア看護実践において、医療行為を安全に実施するために必要な特定行為研修科目の内容を含めます。</p> <p>(2) プライマリケアの包括性・継続性を理解し、現場に根差した役割を発揮するための高度実践看護にかかわる科目を配置します。</p> <p>(3) カリキュラムは、日本 NP 教育大学院協議会の示す大学院における授業設置基準となる授業科目および本学の独自科目の（必修 55 単位以上）で構成します。併せて特定行為研修修得に必要な共通科目と本学の養成する人材に必要な区分別科目（7 区分 11 行為）を配置します。</p> <p>(4) 履修は、必修 55 単位以上（日本 NP 協議会規定）ほか、院生が自由に修得できるように選択科目を準備します。</p> <p>(5) 授業（講義・演習）は、オンラインを最大限使用し、仕事を続けながら学位を取得できる仕組みを作ります。</p>	<p>以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得するとともに、課題研究論文審査に合格し、以下の要件を満たしたと認められる者に対し、修士（プライマリケア看護学）の学位を授与します。あわせて、特定行為研修修了（7 区分 11 行為）、一般社団法人日本 NP 教育大学院協議会の診療看護師（NP）資格認定試験の受験資格を授与します。</p> <p>(1) 在宅、施設、病院において疾患をもつ人や状態変化のある人に対して、包括的健康アセスメント、的確な臨床判断、治療の管理、治療効果の評価を実施できる能力を身につけている。</p> <p>(2) 対象に必要なケアについて医師ならびに関係者と連携・協働を推進できる能力を身につけている。</p> <p>(3) 個人（個々人）の健康の質・生活の質や価値観を重視し、看護倫理に基づいた統合的な高度看護実践能力を身につけている。</p> <p>(4) 現場に根差し、実践的な課題解決にむけて、根拠のある高度な看護を提供（実践）しながら常によりよい看護を自ら発展させるための研究能力を身につけている。</p>

大学院医療保健学研究科博士課程に係る入学受け入れの方針、教育課程編成・実施の方針、学位授与の方針

【感染制御学、周手術医療安全学】

令和 7. 4. 1 施行

	入学受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
<p>医療保健学研究科 博士課程</p>	<p>科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し医療に関連する社会において、卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人を育成するため、入学するには次の資質が求められます。</p> <p>感染制御学領域</p> <p>(1) 感染制御学の体系的な知識を有し、学術研究と臨床現場および社会での実践を推進するための倫理性と責任感を備える者</p> <p>(2) 臨床現場および社会との関連における実践能力と調整能力を基に、学際的・国際的視点で先駆的な研究成果をあげ、学術の高度化に寄与する意欲を有する者</p> <p>(3) 先駆的な研究成果をあげ、学術の高度化に寄与し、かつ牽引者として後進を指導しようとする目的意識のある者</p> <p>周手術医療安全学領域</p> <p>(1) 周手術の医療安全における体系的な知識を有し、学術研究と臨床現場での実践を推進するための倫理性と責任感を備える者</p> <p>(2) 臨床現場における実践能力を基に、学際的・国際的視点で先駆的な研究成果をあげ、学術の高度化に寄与する意欲を有する者</p> <p>(3) 先駆的な研究成果をあげ、学術の高度化に寄与し、かつ牽引者として後進を指導しようとする目的意識のある者</p>	<p>1. 科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し、医療に関連する社会における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人を育成するための教育課程を編成し、実施します。</p> <p>2. 教育研究実践の高度化・専門化に対応し、我が国の医療現場等において各領域の専門的知識をもって中心的指導者として活躍できる人材を育成するために、各領域に関する特別講義及び特別研究により研究演習を開設します。</p> <p>3. 各領域における教育課程編成・実施の方針は次のとおりです。</p> <p>感染制御学領域</p> <p>(1) 感染制御学研究の基盤となる感染制御学の歴史や関連法律、感染症の医学的知識、医療現場の洗浄・消毒に関する知識を基に、国際的な視点での最新の感染制御学に関する知識を修得できるよう教育課程を編成します。</p> <p>(2) 臨床現場および社会での実践において、研究疑問を広い視野でとらえて再考し、エビデンスを構築する力、説明する力、分析結果に基づき考察する力、中心的指導者として人材を育成できる力を学修します。</p> <p>周手術医療安全学領域</p> <p>(1) 周手術医療安全学研究の基盤となる周手術期における歴史や関連法律、術前・術中・術後の医学的知識や手術室関連設備に関連した感染制御の視点、医療現場の洗浄・消毒・滅菌に関する知識を基に、国際的な視点での最新の周手術医療安全学に関する知識を修得できるよう教育課程を編成します。</p> <p>(2) 周手術医療安全学領域での研究対象の設定から臨床で生じた研究疑問を広い視野でとらえて再考し、エビデンスを構築する力、説明する力、分析結果に基づき考察する力、中心的指導者として人材を育成できる力を学修します。</p>	<p>1. 3年以上在学し、所定科目を修得した上で、第2項以下の各領域に掲げる能力を有する高度専門職業人であると認められるとともに、研究成果である博士学位論文について厳正なる審査により合格と認められる者に、博士の学位を授与します。</p> <p>2. 各領域における学位授与の方針は次のとおりです。</p> <p>感染制御学領域</p> <p>第1項の要件を満たし、広い視野に立った研究活動を行い、感染制御学の牽引者としての以下の能力を有すると認められる者に、博士（感染制御学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 医療現場に直結した感染制御の課題を解決する卓越した能力</p> <p>(2) 社会的かつ最新の学際的な知見から課題を解決し価値を創出できる卓越した能力</p> <p>(3) 学際的な研究・技術開発に参画して研究を牽引できる先駆的研究能力と教育・指導力</p> <p>周手術医療安全学領域</p> <p>第1項の要件を満たし、広い視野に立った研究活動を行い、周手術医療安全学の牽引者としての以下の能力を有すると認められる者に、博士（周手術医療安全学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 医療現場に直結した周手術の医療安全に関する課題を解決する卓越した能力</p> <p>(2) 社会的かつ最新の学際的な知見から課題を解決し価値を創出できる卓越した能力</p> <p>(3) 学際的な研究・技術開発に参画して研究を牽引できる先駆的研究能力と教育・指導力</p>

【看護学】

	入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
医療保健学 研究科 博士課程	<p>医療保健の領域のみならず広く人材を求め、多分野を橋渡しし、研究・教育・管理・運営できる人材を養成し、臨床現場のみならず産・官・学へ広く輩出していくことを目指し、入学者には以下の資質と意欲が求められます。</p> <p>(1) 医療保健学に関わる学術研究と臨床実践を推進するための倫理観と責任感を備えた者</p> <p>(2) 論理的思考力と実践の専門的知識をもとに、医療保健学に関わる課題解決に貢献し、新たな医療保健システムの構築・発展に寄与する立案・企画、および運営・実践に意欲のある者</p> <p>(3) 先駆的な研究成果をあげ、学術の発展に寄与し、かつ後進を指導しようとする目的意識のある者</p>	<p>学位授与方針に掲げる目標を達成するために、特別講義、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ、特別研究Ⅲ、指導教員による演習とゼミを通して、以下の教育・指導を実施します。</p> <p>(1) 高い倫理観と責任感の醸成</p> <p>(2) 基盤的・先端的な専門知識の修得</p> <p>(3) 研究の企画・遂行能力の涵養</p> <p>(4) 創造性豊かな研究・開発・論文執筆能力の育成</p> <p>(5) 研究成果を社会に発信し、社会を牽引する能力の涵養</p>	<p>3年以上在学して教育理念・目標にそった授業科目を16単位以上履修し、研究指導を受け博士論文を作成・提出し、所定の審査に合格した者に博士（看護学）学位を授与します。なお、修了にあつては、以下の点に到達していることを目標とします。</p> <p>(1) 知性をもって社会に貢献できる資質と態度を備え、学術研究と臨床活動における高い倫理観と責任感があること</p> <p>(2) 当該専門領域における課題解決力と価値の創出力があり、先駆的研究・技術の開発・教育活動を発展させることができること</p> <p>(3) 科学的根拠のある研究成果を社会に発信でき、学際的な研究・開発に参画し、指導的役割を担えること</p>

大学院看護学研究科修士課程に係る入学者受け入れの方針、教育課程編成・実施の方針、学位授与の方針

6.4.1. 施行

	入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
看護学研究科 修士課程	<p>現代の医療は、日々、高度化、複雑化し、専門化が進んでおり、国民・患者の医療に対するニーズも多様化しております。その一方で、医療の現場では、医師不足に伴う救急医療における患者の受け入れ拒否、産科病棟の閉鎖、ハイリスク妊婦の受け入れ先及びNICU病床の不足等の課題が指摘されるなどの諸問題を抱えております。</p> <p>また、看護の基礎教育の大学化が急速に進む中で、看護研究教育に係ることのできるスキルを備えた教育者の確保も極めて困難な状況にあります。</p> <p>大学院看護学研究科では、高度な判断力、実践力及び教育研究・管理能力を通して、医療・保健・福祉に対する時代・社会のニーズに的確・迅速に対応し、チーム医療を支えることができる高度実践看護職の育成、また、研究・教育の探究を通して、看護学の発展に寄与することができる人材を育成します。</p>	<p>大学院看護学研究科は、科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度職業人の育成を図ることを理念として定めており、本学の建学の精神、理念・目的及び学位授与方針に基づき、「教育課程編成・実施の方針」を制定します。</p>	<p>大学院看護学研究科では、高度実践看護、高度実践助産、高度実践公衆衛生看護、看護科学のいずれかの教育プログラムを通して、次に掲げる能力を修得した者にそれぞれ修士（看護学）、修士（助産学）、修士（看護学）の学位を授与します。</p>
高度実践看護 コース	<p>救急医療などの現場において、5年以上の看護実践経験を持ち、本コースにて高度で専門的医療提供に必要な知識、技術を身に付け、患者ニーズに対応したタイムリーな医療を提供でき、医療従事者間のスキルミックスにより、チーム医療のキーパーソンとして自律的に活躍できる能力を備えた高度な看護職、すなわちクリティカル領域で活躍する診療看護師（NP）を育成します。</p> <p>本コースでは、医療における「看護」の役割を充分認識したうえで、救急医療を含むクリティカル領域で、医師等と連携・協働してプライマリ診療の実践に自律的に取り組む情熱を持った学生を求めています。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職としての専門性を高め、臨床の多様な状況において総合的な判断ができ、チーム医療の一員として高度な実践ができる能力を備えた人材を育成するための教育課程を設定し提供します。 2. 「状況を総合的に判断（診察・包括的健康アセスメント）できる能力」の養成を主眼にカリキュラムを編成します。 3. 状況に対応した安全・安心な医療を提供できる能力の養成を主眼にカリキュラムを編成します。 4. 病院実習では、クリティカル領域で必要とされる、診断・検査・治療の方法を修得し、多様な医療ニーズに対応できる実践能力を養うため、医師臨床研修医制度に基づく初期臨床研修（救命救急センター）のプログラムを活用し提供します。 5. 保健師助産師看護師法第37条の2にある特定行為21区分38行為全ての研修プログラムを教育課程に組み込んだプログラムを提供します。 	<p>大学院看護学研究科看護学専攻高度実践看護コースにおいては、2年以上在学し、所定の単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した者であり、次に掲げる能力を有すると認められる者に修士（看護学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカル領域における患者の状況を総合的に判断する能力。 2. クリティカル領域における患者に必要な治療を実践できる能力。 3. 患者に安心・安全な医療をタイムリーかつ効果的に提供するために医師等との協働ができ、ネットワークを推進できる能力。 4. 専門職としての倫理的意思決定能力。 5. 高度看護実践者として、教育的経営的な視点をもつトップマネジメント能力。 6. 臨床実践に潜む暗黙知を形式知へと創出する研究開発能力。 7. クリティカル領域における患者の危機的状況を支援する能力。

	入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
高度実践助産コース	<p>科学的裏付けを活用した高度な実践力、助産学の発展に寄与する研究能力および地域母子保健分野でのリーダーシップ力を持つ自律した助産師の育成を目指しています。</p> <p>本コースの助産師免許取得プログラムでは、①生命誕生に関わり、母子とその家族を支援したいと強く願う学生②豊かな感性と倫理観をもつ学生③看護学における基礎的知識・技術を持ち、意欲的で主体的に学ぶ学生④高度な助産実践力を習得し社会に貢献したいと願う学生を求めています。</p> <p>助産師プログラムでは、①科学的裏付けに基づき助産実践力の探究と助産技術の研鑽をかさねたスペシャリストを目指す学生②リプロダクティブヘルス/ライツの精神に基づき、女性の健康支援と安心して子育てができる地域母子保健事業や国際助産など幅広い分野で活躍できる学生③研究手法を習得し助産学に貢献したいと願う学生を求めています。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産学を支える倫理と理論を基盤とし、自律して自然分娩の介助ができる能力をもち、院内・院外助産システムを担う教育課程を設定し提供します。 2. 多様化する分娩様式に対応できる助産実践能力の習得を目指し、専門的で質の高い助産技術と周産期の救急時対応について実学を通して学ぶカリキュラムを編成します。 3. 変化する地域社会の中で母子とその家族の状況を把握する分析力を習得し、サスティナビリティ（持続可能性）のある母子保健事業の企画・運営ができる能力を養うカリキュラムを編成します。 4. 人間の尊重とすべての女性のリプロダクティブヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の保障を目的に、地域共生社会の実現に向けた支援ができるカリキュラムを編成します。 5. 助産学の発展のために、研究マインド、研究手法の基本を修得し、EBPM（Evidence Based Practical Midwifery）を実践できる能力を養成するカリキュラムを編成します。 6. 医療職および他分野の専門職者から最新の知見や技術について実学を通して学び、助産におけるイノベティブ(革新的)な創造力を養うカリキュラムを編成します。 	<p>大学院看護学研究科看護学専攻高度実践助産コース(助産師プログラム及び助産師免許取得プログラム)においては、2年以上在学し、所定の単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ、修士の学位論文審査または特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した者であり、次に掲げる能力を有すると認められる者に修士(助産学)の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自律して自然分娩の支援ができる能力。 2. 院内・院外助産システムを担うことができる能力。 3. 女性の生涯にわたる健康を支援できる能力。 4. 周産期の救急時に対応できる能力。 5. 多職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力。 6. 研究・開発能力。 7. 倫理的意思決定能力。
高度実践公衆衛生看護コース	<p>少子高齢化の急速な進展に伴い、住民の健康増進・疾病予防等を支援し、我が国の健康寿命の延伸に貢献できる保健師の能力を育成していくことが重要です。地域の住民の特性を的確に把握し、自立を支えることを通して、地域住民のヘルスリテラシーを高め、さらには地域のソーシャル・キャピタル等を高めることができる保健師の育成を目指しています。また、産業保健活動を通して就労者の健康支援ができる保健師の育成も目指しています。</p> <p>本コースでは、保健師としての目的意識及び 21 世紀の保健師に求められる将来像を明確にもち、実践家又は教育研究者を目指して自律的に取り組む情熱を持った学生を求めています。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の多様な課題に対応できる高度な能力を有する保健師の養成を主眼にカリキュラムを編成します。 2. 地域住民の自立を支える能力を有する保健師の育成を目的として、住民の自立を支える公衆衛生看護活動について実学を通して学ぶことができるカリキュラムを編成します。 3. 政策や保健事業をプランニング・コーディネーション・マネジメントのできる保健師の育成を目指して、実際の企画から予算管理、当日の運営に至るまでを実学を通して学ぶことができるカリキュラムを編成します。 4. 疫学・統計学の基礎を理解し、分析や研究を通して、支援の展開につなげることができるカリキュラムを編成します。 5. 災害、新興・再興感染症、児童虐待といった公衆衛生上の様々な危機管理への対処能力のある保健師を育成するためのカリキュラムを編成します。 	<p>大学院看護学研究科看護学専攻高度実践公衆衛生看護コースにおいては、2年以上在学し、所定の単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した者であり、次に掲げる能力を有すると認められる者に修士(看護学)の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な課題に対応する高度な実践力 2. 地域住民の自立を支える統合的支援能力 3. 地域の健康課題を科学的にアセスメント・分析する能力 4. 政策や保健事業を開発する能力 5. 災害対応や新興・再興感染症への危機管理能力 6. 公衆衛生看護・公衆衛生行政に繋がる研究能力

大学院看護学研究科修士課程に係る入学者受け入れの方針、教育課程編成・編成の方針、学位授与の方針

	入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
看護科学 コース	<p>看護学の発展・進化及び看護のさらなる質向上を目指すために、研究マインドを持って看護学の基礎教育に関わることができる「看護教育・研究者」や、実際の医療保健の現場においてエビデンスに基づいた看護マネジメントができる「看護管理者」を育成します。</p> <p>本コースでは、科学的な視点から看護学を探究し、自らもエビデンスを創出し、エビデンスに基づいた看護実践・管理にまで発展させることを目指して、自律的に取り組む情熱を持った学生を求めています。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の発展・進化及び看護の質向上に寄与することができる研究能力及び教育能力、また実際の医療保健の現場においてエビデンスに基づいた看護マネジメントができる能力の養成を主眼としたカリキュラムを編成します。 2. 高等教育における看護基礎教育において看護の対象であるヒト、人、人間を理解するために必須とされる看護の基盤となる学問領域に関する研究教育能力をもった人材を育成するための教育課程を設定します。 3. 高等教育における看護基礎教育において各専門領域の看護学に関する研究教育能力をもち、学部学生の臨地実習指導、新人看護師等の現任教育、生涯教育・卒後教育への支援や指導ができる人材を育成するための教育課程を設定します。 4. 臨床現場においてリーダーシップを発揮し、エビデンスに基づく看護マネジメントができ、トップマネジメントもできる看護管理者を目指すと共に、また看護学のスキルをベースに社会の保健ニーズに柔軟に対応できる研究教育能力をもった人材を育成するための教育課程を設定します。 	<p>大学院看護学研究科看護学専攻看護科学コースにおいては、2年以上在学し、所定の単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ、修士の学位論文審査及び最終試験に合格した者であり、次に掲げる能力を有すると認められる者に修士(看護学)の学位を授与します。</p> <p>看護教育・研究者プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の継承・発展を担うための研究能力。 2. 臨床現場で「つかえる」エビデンスを「つくり」「つたえる」ことができる能力。 3. 臨床現場との連携を図りながら看護基礎教育を担うことができる能力。 4. 実践を行いながら学部学生の臨地実習指導、新人看護師等の現任教育、生涯教育・卒後教育への支援や指導ができる能力。 <p>看護管理者プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理学の継承・発展を担うために必要な研究能力。 2. 臨床現場で「つかえる」エビデンスを「つくり」「つたえる」ことができる能力。 3. 看護管理者として、臨地においてリーダーシップを取りながら、エビデンスに基づく看護マネジメントができる能力。 4. ヒト・モノ・カネ・情報等のシステム的管理能力の向上。 5. 病院管理者の一員として管理能力を養い、病院経営に積極的に参加する姿勢。

大学院看護学研究科博士課程に係る入学受け入れの方針、教育課程編成・編成の方針、学位授与の方針

	入学受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
看護学研究科 博士課程	<p>看護学の発展・進化及び看護のさらなる質向上を目指すために、研究マインドを持って看護学の基礎教育に関わることができる研究・教育者を育成します。</p> <p>博士課程では、科学的な視点から看護学を探究し、エビデンスを創出し、エビデンスに基づいた看護実践にまで発展させることを目指して、自律的に取り組む情熱を持った学生を求めています。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の発展・進化及び看護の質向上に寄与することができる研究能力及び教育能力の養成を主眼としたカリキュラムを編成します。 2. 看護の対象であるヒト、人、人間を科学的に捉え、その発達段階に応じた看護学の各専門領域に関する研究教育能力をもった人材を育成するための教育課程を設定します。 3. 看護科学をベースに地域社会の保健ニーズに柔軟に対応できる研究教育能力をもった人材を育成するための教育課程を設定します。 	<p>大学院看護学研究科看護学専攻博士課程においては、3年以上在学し、所定の単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ、博士の学位論文審査及び最終試験に合格した者であり、次に掲げる能力を有すると認められる者に博士(看護学)の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の継承・発展を担うための研究能力。 2. 人間の発達段階に応じた看護学に関する研究能力。 3. 地域社会の保健ニーズに即した実践的研究教育能力。 4. 臨床現場で「つかえる」エビデンスを「つくり」「つたえる」ことができる能力。 5. 臨床現場との連携を図りながら看護基礎教育を担うことができる能力。 6. 実践を行いながら学部学生の臨地実習を指導できる能力。

大学院和歌山看護学研究科修士課程に係る入学者受け入れの方針、教育課程編成・実施の方針、学位授与の方針

令元. 7. 17 大学経営会議

	入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
和歌山看護学研究科	<p>1. 科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人を育成するため、入学者には次の資質を求めます。</p> <p>(1) 豊かな人間性と倫理観を備えていること。 (2) 広い視野と探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を有すること。 (3) 研究に関する展望を持ち、論理的思考力を有すること。 (4) 専門職業人として高度な実践能力の向上とケアの発展を目指す意思を有すること。</p>	<p>1. 科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人を育成するための教育課程を編成し、実施します。</p> <p>2. 高度専門医療と地域医療における関係機関の多職種と協働し、チームケアのキーパーソンとして豊かな人間性や広い視野に加え、高度な倫理観、専門知識や技術に裏打ちされる高い実践能力、管理能力、指導能力を持って地域包括ケアを推進できる人材を育成するため、共通科目及び専門科目を配置します。</p> <p>3. より専門性を考究するため、3つの研究領域に応じた共通科目、選択科目及び演習科目を開設します。各領域における方針は次のとおりです。</p> <p>(1) 包括ケアマネジメント学領域 地域の医療施設、福祉施設、行政の組織、及び教育機関における課題を見出し、科学的根拠のもとに改善・解決に導くために中心的役割を担える管理・指導を学ぶことができるカリキュラムを編成します。</p> <p>(2) 包括ケア実践学領域 地域の特性や人的・物的資源を活用した支援方法を開発し、多様なニーズを持つ人々の健康生活に貢献できるカリキュラムを編成します。</p> <p>(3) 包括ケア教育学領域 保健医療福祉関連施設や教育機関において、教育方法の開発や教育改善を行い、基礎教育や現任教育で人材養成できるカリキュラムを編成します。</p>	<p>1. 和歌山看護学研究科修士課程の修了要件を満たすとともに、以下の事項を修得したと認められる者に「修士（看護学）」の学位を授与します。</p> <p>(1) 人間に対する深い洞察力や高い倫理観に根差した高度な看護実践に関する学識を有すること。 (2) ヘルスケアシステムを視野に入れ、看護実践、組織管理、医療保健福祉の開発能力を有すること。 (3) 高度専門職業人として、また指導者、教育者として社会に貢献する意欲と能力を有すること。</p>

大学院千葉看護学研究科修士課程に係る入学者受け入れの方針、教育課程編成・実施の方針、学位授与の方針

令 2.7.15 大学経営会議

入学者受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
<p>1. 創造性豊かな優れた研究・開発能力を有し、高度な専門的知識・能力を継続的に発展させながら現場看護職者のリーダーとして牽引・指導でき、多職種との連携を強化し、最大活用する能力を有する高度専門職業人を育成するため、入学者には次の資質を求めます。</p> <p>(1) 専門分野の知識・経験を持ち、看護学に関する基礎的知識、実践を概念化する思考能力の基礎を備えている者。</p> <p>(2) 多様な組織・地域・社会へ働きかける態度と資質を有し、ケアの視点を広げて他職種と協働する力の統合を志す者。</p> <p>(3) 地域社会のテーマに沿った研究計画を立案し、実施する姿勢を持ち、論理的思考を研鑽していく意欲を有する者。</p>	<p>1. 科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し、臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人を育成するための教育課程を編成し、実施します。</p> <p>2. 高度な看護実践の基盤となる理論的・学際的知識や、看護機能の推進が資する現代的課題を広く探索し解決することに関する知識を扱う科目を共通科目として、以下に沿ってカリキュラムを編成します。</p> <p>(1) DP1.多職種・多領域との協働において看護の本質を「掴む」能力を育成するために、看護学と関連分野について歴史的な発展も含め理論的に学ぶことができるカリキュラムを編成します。</p> <p>(2) DP2.高度に機能分化したケアシステムの中で、保健医療福祉機関及び人びと等を「繋ぐ」能力を育成するために、社会制度や情報システムとその活用、人びととそのコミュニティを理解し協働するあり方、人びとを繋ぐものとしての学修支援に関するカリキュラムを編成します。</p> <p>(3) DP3.地域社会における看護機能を推進し研究活動の成果を「示す」能力を育成するために、看護機能の推進活動を伝える科目、及び修士課程での学修と研究の基盤となるスキルを学ぶことができるカリキュラムを編成します。</p> <p>3. 看護機能の実践と推進に関する知識・技術を学ぶとともに、科学的根拠をもって発展させることに関する科目を専門科目として、以下に沿ってカリキュラムを編成します。</p> <p>(1) 地域包括ケアシステムの一環として看護機能を推進する視点から、コミュニティ・ケア、生涯発達看護、看護キャリア支援、看護マネジメントを提示し、それぞれ特論及び演習として配置します。</p> <p>(2) 科学的根拠をもって発展させる基盤となる知識・技術を獲得するため看護研究方法Ⅰ・Ⅱを配置します。</p>	<p>1. 組織・チームでの実践を牽引・指導することのできる高度専門職業人として、次のような能力を修得したと認められる者を修了とし、「修士（看護学）」の学位を授与します。</p> <p>(1) DP1：多職種・多領域で担うケアシステムの構築・維持・発展において、常に、看護の本質を「掴む」能力を有する。</p> <p>(2) DP2：高度に機能分化したケアシステムを俯瞰し、多様な背景をもつ一人ひとりに必要な保健医療福祉機関及び人びと等を、あらためて「繋ぐ」能力を有する。</p> <p>(3) DP3：地域社会における看護機能を推進するための研究リテラシーを獲得し、社会実装に向けて研究を実施し、成果を「示す」能力を有する。</p>